

# 秋まきでおいしい ネギを作きましょう！

秋冬野菜のタネをまく季節がやってきました。葉ネギは用途が広く、周年利用も可能です。きざみネギとしてうどんやそばの薬味にしたり、大きく育てて鍋物やすき焼きに用いるなどおいしく食べられます。

ネギは毎日使いたい野菜なので、家庭菜園で作れば、新鮮なネギがいつでも味わえ重宝します。そこで今回は、やわらかく、香りのよい葉ネギ品種とその栽培についてご紹介します。

さらに！記事の最後では、根深ネギの栽培でよくある疑問にお答えしています。

タキイの

# 葉ネギ

おすすめの使い方



## 【おすすめの九条系品種

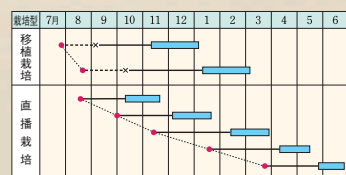
この2種は、小ネギから中ネギまで、お好みの大きさで利用できます。】

タキイ長沼  
研究農場

あまのりょうじ  
大野 亮治



九条系の良質性をもちながら、葉折れしにくく、作りやすい多収型F<sub>1</sub>品種。



タキイ交配 **三太夫**

申込番号 **809-019-04**

1袋(約2,840粒) 315円



葉がやわらかく香りに優れるF<sub>1</sub>品種。スーパーなどで買うネギにはあまりない、九条系のやわらかさと風味が食欲をそそる。根張りがよく、作りやすいのも特長。

タキイ交配 **こはる小春**

申込番号 **809-019-01**

1袋(約2,800粒) 315円

申込番号 **809-019-02**

1袋(300粒)(ベレット種子) 367円

申込番号 **809-019-03**

1缶(2dℓ) 2,782円

お届け規格  
タネ

このページの  
商品は

ご注文締切 11/末  
商品のお届け 順次



# 栽培方法

畑にタネを直まきする方法と、育苗して畑に移植する方法があります。いずれにしても、葉を直接食べるので、できるだけ農薬は使いたくないものです。そのためには、苗を健康に育てることが重要です。<sup>たいひ</sup>堆肥や有機肥料で土づくりをし、水はけに注意して育てましょう。

ネギは酸性土壌を嫌うので、苦土石灰などを堆肥とともに施し、土づくりを行うことが大切です。また、浅根性で酸素を好むため、水が停滞しないような畑づくりをしましょう。

タネは、<sup>うね</sup>畝に20cm程度の<sup>すじ</sup>間隔で条まきします。9月はまだ暑い時期なので、<sup>かんれいしや</sup>覆土した後は、乾燥防止のため敷きわらや「寒冷紗」で被覆してから、たっぷり水やりします。発芽を始めたらずちに被覆を外します。生育初期は随時水やりして順調な生育になるよう心掛けます。

地表面が固まってきたり、雑草が目立ってきたら、除草を兼ねて条間を中耕し、軽く土寄せします。追肥は肥切れしないように少量ずつ施します。施肥量が多いと苗が徒長して倒れるので注意しましょう。小ネギサイズの時に間引きどしし、株間を広げることで、中ネギサイズまで大きくすることができます。

また、小ネギサイズを長期間楽しみたい場合は、タネまきを2～3回に分けて時期をずらして行うとよいでしょう。

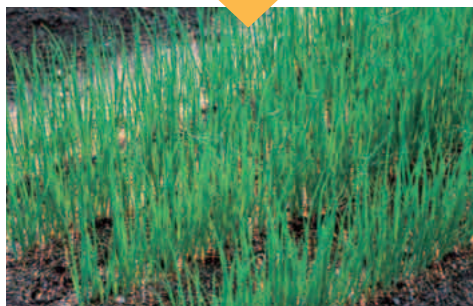
発芽したら、被覆資材はすぐに外す。



生育初期は、適宜水やりをして順調に生育させる。



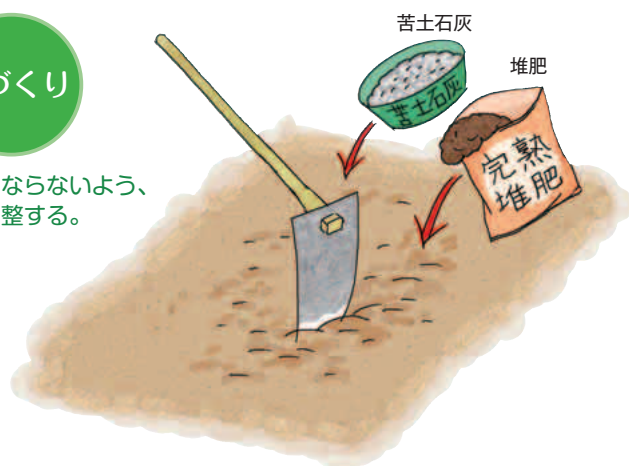
折々に、除草を兼ねた中耕をする。また、小ネギサイズでの収穫を兼ねて間引きし、株間を広げて大きく育てる。



## 直まき栽培

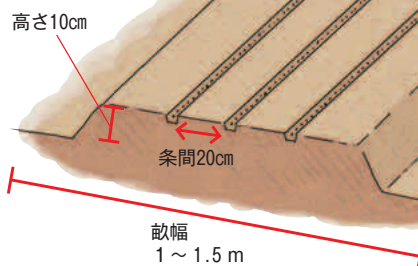
### 土づくり

酸性にならないよう、pHを調整する。



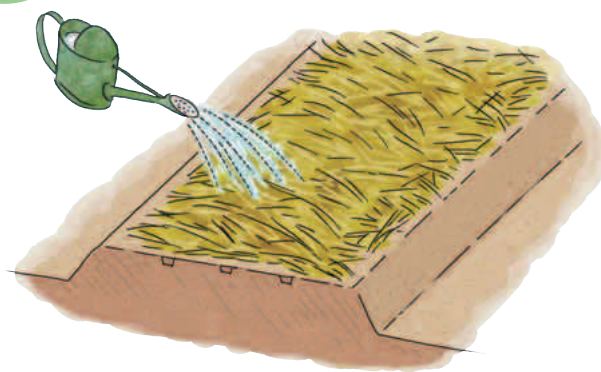
### 畝立て・条まき

水はけがよくなるような畝をつくる。



### 覆土・被覆

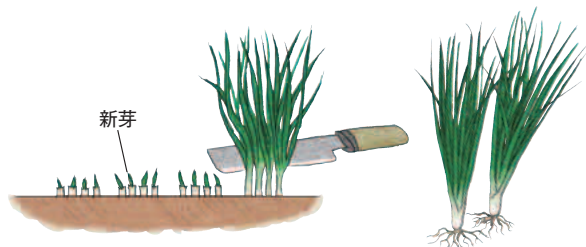
タネまき後、覆土したら乾燥防止に敷きわらなどで覆い、たっぷり水やりを。



## 収穫



株ごと掘り  
とる様子。



### 薬味用

地上部を刈りとり利用すると、何回か収穫することができる。この場合、収穫後に追肥をして、新芽をしっかりと出させることがポイント。

### 鍋物用など

株が大きき育ったら、株ごと掘り上げ順次収穫する。

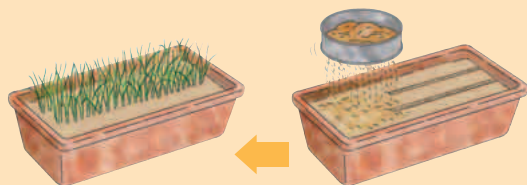
こんな  
ネギもある！

料理のあしらいにぴったり

## 「芽ネギ」

お吸い物やお寿司の具材として使われる、芽ネギをご存知でしょうか？香りがよく、ほどよい辛みもあって、食欲をそそります。「かおり芽ネギ」は芽ネギ専用の品種です。プランターに条まきし、5cm程度に伸び、本葉が出る前の段階で収穫します。播種から収穫までの間隔が短く、周年栽培が可能です。

### かおり芽ネギのプランター栽培



| 栽培型          | 3月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------------|----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| トンネル         |    |   |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |
| 露地または<br>雨よけ |    |   |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |
| ハウス          |    |   |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |

### かおり芽ねぎ

申込番号 809-021-01 1袋(約5,000粒) 315円  
申込番号 809-021-02 1袋(1dl) 924円

## 移植栽培

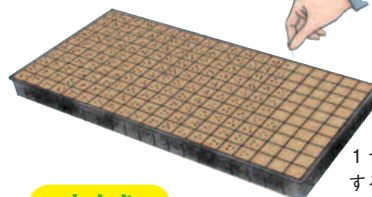
10月下旬にタネをまき、育苗したものを3～4月に畑へ移植（定植）します。

直まき栽培と同様に土づくりをし、畝へ条間20cm×株間15～20cmとし、図のように1カ所に苗を4～8本まとめて植え付けます。その後1カ月ごとを目安に、雑草の除去も兼ねた中耕・軽い土寄せを行います。生育期間がやや長くなるため、定植後は肥料切れを起こさないように、適宜追肥を行ってください。なお、抽苔したら花芽を摘んで育てます。移植後60～70日で中ネギサイズの収穫ができます。

### タネまき

セルトレイや土まきなどで、本葉4～5枚の定植適期苗に育て、畑へ定植する。

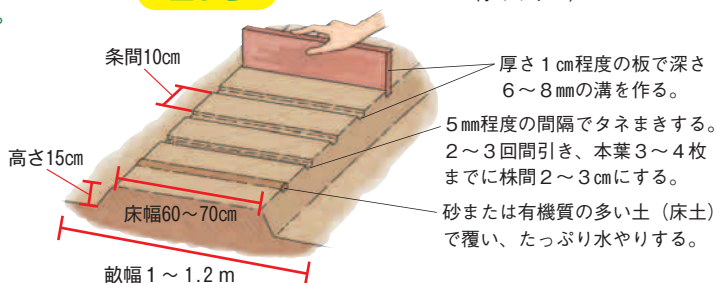
### セルトレイ（200穴）



セルトレイでの育苗例

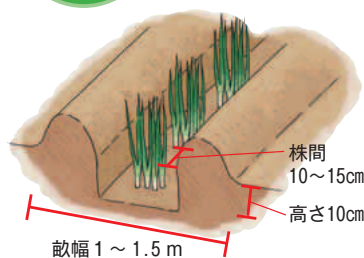
1セルに2～3粒まいて覆土する。（200穴のセルトレイが育てやすい）

### 土まき



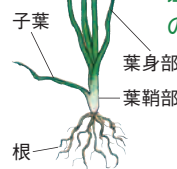
### 植え付け

苗を数本まとめて、10～15cm間隔に植える。覆土は苗が倒れない程度に行う。



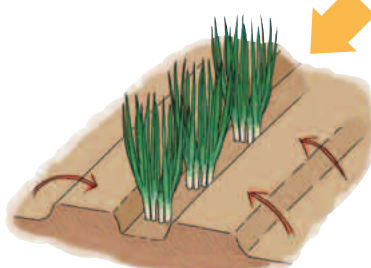
### 定植苗

本葉4～5枚のネギ苗



追肥は1回にチッソ成分量で2～3g/1㎡

植え付け後1カ月ぐらいのころ、肥料を施し中耕、軽い土寄せをする。



1カ月ごとを目安に同様に追肥し、中耕、土寄せをする。

### 追肥

生育期間がやや長いので、追肥は適宜行う。



お届け規格：記載のないもの

タネ

p.21～22の  
記載のない商品は

ご注文締切 11/末  
商品のお届け 順次



# 根深ネギ Q&A

## Q1

根深ネギで春にトウ立ちしてしまいました。どうしてでしょうか？  
また、食べても大丈夫でしょうか？

## A1

ネギはある程度以上の太さで冬の低温に当たると花芽を作ります。その後、高温長日条件で花芽が伸びてトウ立ちします。トウ立ちしたネギを食べても特に問題はありますが、栄養が花芽のほうに使われてしまうため、おすすめはしません。トウ立ちした場合、花芽を摘んでしまい、新たに出てくる芽に栄養が回るようにしたほうがよいでしょう。なお、摘んだ花芽は天ぷらなどにして食べることができます。



ネギ坊主

## Q2

根深ネギが分けつしてしまいました。どうしてでしょうか？

## A2

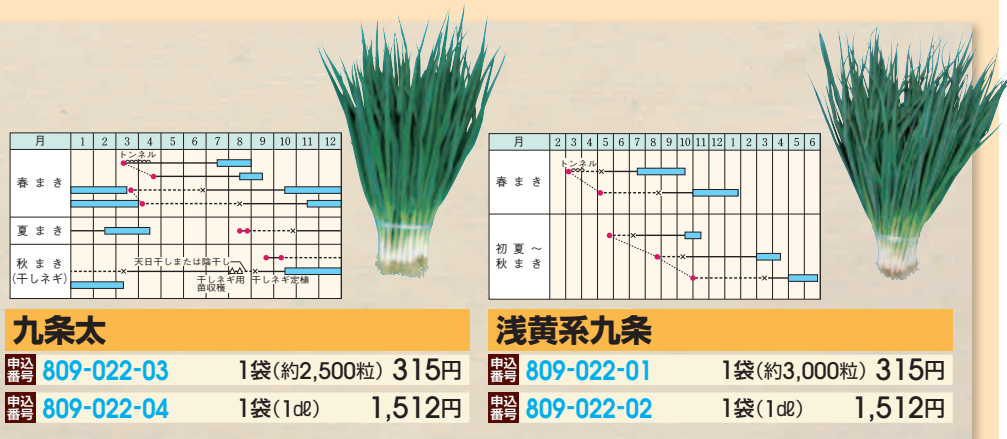
ネギの分けつは、えき芽の発育したものです。生じやすさは品種や環境に影響されます。根深ネギは分けつが少なく品種改良されてきたものですが、条件によって起きる場合があります。明確な原因は不明ですが、定植時に大苗にしすぎたり、すぐに植えられず、苗を乾燥させすぎたりすると生じやすいと考えられています。

インターネットでも注文いただけます。  
<http://shop.taki.co.jp>

# 京都の伝統野菜、 「九条ネギ」を作る！

こんな  
ネギもある！

「京都の伝統野菜である九条ネギを作りたい！」という方がたくさんいらっしゃいます。主に西日本を中心に栽培されている九条ネギには、細く葉色の浅い「浅黄系九条」と、比較的太く葉色の濃い「九条太」があります。秋まきで春に若ネギとして収穫したい場合は「浅黄系九条」を、ネギの旬である秋冬に収穫したい場合は「九条太」をおすすめします。どちらも、やわらかな肉質と香りのよさは他の追随を許しません。



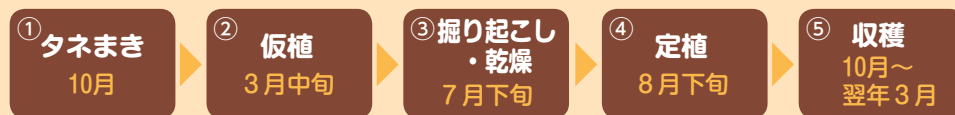
## 干しネギの栽培方法

大ネギの秋冬どり作型の場合、『干しネギ栽培』という独特の方法があります。干しネギ用の苗は夏に店頭に出回りますが、自分で作ることも可能なので、その方法をお教えしましょう。

初夏どり作型としての利用も兼ね、10月にタネをまき、3月中旬まで育苗し、畑に定植します。干しネギ用は7月下旬に苗を掘り上げ、約20日間乾燥させます。乾燥の方法は、まず掘り上げたその場で5～7日間地面に並べて干す『地干し』を行い、次に風通しのよい場所で、葉をしばって束にした状態で干す『本干し』を2週間ほど行います。

8月下旬には、枯れた葉を除去し、長さを切り揃え、1カ所に3～4本ずつ定植します。暑くて育苗できない時期にも干しネギなら早く植えられて秋から利用できます。ネギを干すことで新芽の出がよくなり、10月～翌年3月にかけて収穫できます。株は数倍に分けつし、草丈は90cm程度にもなります。

「九条ネギ」は高温期には株元が太って、休眠し不良環境に対応します。その特性を利用して育苗が困難な晩夏の定植に干しネギを使います。



干しネギ苗のイメージ。

## 干しネギ苗

ご注文締切 9/10 商品のお届け 9/下まで

(お届け規格：根引き乾燥苗・1kgで10～30株)

### 九条太干し葱

☎ 809-022-05 1組(3kg) 3,000円/3組(9kg) 7,650円

京都特産の葉ネギ専用種。葉色が濃く、肉厚で香りよくやわらか。冬季は特に甘みが増す。

### 浅黄系九条干し葱

☎ 809-022-06 1組(3kg) 3,000円/3組(9kg) 7,650円

鮮緑色で分けつ性に優れ、株立ちがよい。葉質やわらかで品質良好。耐暑性強く、夏ネギ、小ネギ用として好適。